

授業案②⑥ 情報の信用性判断

1 対象

小学校高学年～中学生

2 獲得目標

接した情報が信用できるものかどうかを判断する視点を理解する。

3 指導要領との関係・本授業案の意義

小学校学習指導要領においては、各教科等の指導にあたり配慮すべき事項の1つとして、「情報を精査して考えを形成」すること等、過程を重視した学習の充実を図るものとされており（第1章第3・1(1)）、各教科においても、情報を精査する能力やその必要性に関する内容が言及されている（第2章第1節第2〔第3学年及び第4学年〕2(2)ア、第2章第2節第2〔第5学年〕3(4)）。

小学校高学年はSNSの利用等多様なメディアへの接触が拡大しつつある時期でもあることから、情報の中には信用性が乏しいものが存在することを実感し、情報の性質や信用性を判断する視点を身に付けてもらう必要があると考えられる。

上記の資質・能力は様々な職業において（あるいは日常生活においても）普遍的に必要とされるものであるが、とりわけ訴訟等において供述証拠を含めた証拠の信用性を検討する機会が多い弁護士とも深い関連性を有している。

4 授業の流れ

1 限

段階 時間	○教師の主な発問・指示 ◎学習内容	⇒児童・生徒の反応 指導のポイント
導入 5分	○ 何かを知りたいと思ったとき、どのような手段が考えられるか児童・生徒に挙げてもらう。 ○ それぞれの手段について、その手段で得た情報が常に正しいと思うか、理由とともに述べてもらう。 ○ 様々な手段（媒体）があるが、どの手段も元を辿れば人（発信者）が他の人に伝えたいと思った内容であること、情報は必ずしも正しい／信用できるとは限らないことを指摘する。	⇒ 人（親、学校の先生、友達など）に聞く、本・新聞を読む、テレビを見る、インターネットで調べる（ウェブサイト、SNS、動画）等。 媒体によって違いはあるが、間違っている場合があることを意識させる。

展開1 20分	○ 別紙【事例1】の内容を読み上げる。 ○ 信用できる／信用できない、の別を挙手してもらう。 ○ それぞれの立場で挙手した児童・生徒数人程度に理由を述べてもらう。 ○ 【事例1】の発言者が嘘をついていたと仮定した場合、発言者が嘘をついた理由について意見を述べてもらう。 ○ 人が嘘をつく理由の1つとして、嘘を吐くことにより何らかの利益を得られる場合があることを説明する。 ○ 上記のような場合の例を挙げて理解を深めてもらう。(例：刑事ドラマの犯人役が自分の行動について嘘を吐く場合) ◎ 嘘をつくことで発信者に何らかの利益がある場合、発言者が意図的に真実でない内容を述べていないか慎重に考える必要があることを説明する。 ○ 【事例2】前半の内容を読み上げる。 ○ Aさんの発言内容について、信用できる／信用できない、の別を挙手してもらう。 ○ それぞれの立場で挙手した児童・生徒数人程度に理由を述べてもらう。 ○ 【事例2】後半の内容を読み上げる。 ○ 改めて、Aさんの前半の発言内容について、信用できる／信用できない、の別を挙手してもらう。 ○ それぞれの選択肢で手を挙げた児童・生徒を数人程度当てて理由を答えてもらう。 ○ 人が誤った情報を発信する場合、事例1のように意図的に嘘を述べている場合でなくとも、発言者が勘違いをしている場合があることを説明する。 ○ 人の記憶は曖昧なもので、思い込み等のため間違った内容を記憶してしまうことや、記憶が時間経過や何らかのきっかけで変わってしまうことがあることを説明する。 ○ 上記の例を挙げて理解を深めてもらう。(例：犯罪捜査の写真面割りで写真帳を使用する理由や質問の仕方) ◎ 発信者が意図せず誤ったことを述べていないかを考える上では、視認等の状況や時間経過の程度等が重要になることを説明する。	⇒ 「信用できない」が多いと思われる。 ⇒ そんな凄い商品があればもっとニュースになっているはず、言っている人がどんな人なのか分からない、商品を多く売って儲けたいから等。 弁護士業務に関連する内容を例として挙げると児童・生徒の興味を惹きやすいと思われる。 どちらにも手を挙げない児童・生徒が多い場合には、「分からない」という選択肢についても聞いてみる。 信用できないと答えた児童・生徒が少ない場合、視認状況を検討するよう誘導する。 意図的な嘘かどうかを検討する場合とは視点が異なることを意識してもらう。
--------------------	---	---

展開2 15分	○ 【事例3】前半の内容を読み上げる。 ○ Cさんの発言内容につき、信用できる／信用できない、の別を挙手してもらう。 ○ それぞれの立場で挙手した生徒数人程度に理由を述べてもらう。 ○ Cさんとの話の後に続けて起こった出来事と説明した上で、【事例3】後半の内容を読み上げる。 ○ CさんとDさんの発言内容が一見矛盾することを指摘した上で、どちらの発言内容が正しいと思うか、生徒に意見を述べてもらう。 ○ 2人の発言内容は必ずしもどちらかが間違っているわけではないこと、その理由として「簡単だった」「難しかった」という内容が、人によって感じ方が違う問題であるからであることを説明する。 ◎ 「事実」と「評価」（又は「意見」）の区別について、それぞれの具体例（例：ある人のテストの点数＝事実、テストが難しかったかどうか＝評価）と、区別する際のポイントは誰が確かめても同じになるかどうかであることを説明する。 ◎ 「評価」は人によって違う場合があるため、「意見・評価」が信用できるかを考える場合には、どのような「事実」を根拠にそのような「評価」を言っているのか、また、根拠とした「事実」から「評価」を導く理屈が納得できるものであるかが重要であることを説明する。	⇒ 嘘をつく理由はない、勘違いとは考えにくい。 ⇒ どちらかが間違っているわけではない。
まとめ 5分	◎ 情報の信用性を考える場合には、その情報が「事実」と「評価」のいずれであるか意識する必要がある。 ◎ 情報が「事実」を述べている場合、信用できるかどうかを判断する上では、発信者が嘘をついたり、勘違いをするような原因がないかが重要になる。 ◎ 情報が「評価」を述べている場合、根拠にした「事実」の内容と、その「事実」と「評価」をつなぐ理屈が納得できるものかという点が重要になる。	

2限

段階 時間	○教師の主な発問・指示 ◎学習内容	⇒児童・生徒の反応 指導のポイント
導入 5分	○ この時間に児童・生徒にしてもらう作業の概略（警察官になったつもりで、ある事件の目撃者の話が信用できるか考える）を説明する。 ○ 【事例4】の内容を読み上げる。 ○ この時点でHさんの話につき信用できる／信用できない、の別を挙手してもらう。 ○ それぞれの立場で挙手した児童・生徒数人程度に理由を述べてもらう。	⇒ 信用できない／判断するための情報が足りない

	○ 現時点では前後の状況等が全く分からず、情報が不足していることを指摘する。	
展開1 20分	○ Hさんにどのような質問を追加すべきか班内で討論（約10分） ○ 1つの班につき1個の質問をしてもらう。最後まで行ったら最初に戻り（あるいは今度は逆順に）、質問が出なくなるまで繰り返す。（長くなり過ぎるようなら適宜の時間で切る。）	班分けは事前に済ませておく。 Hさん役の人物は、それぞれの質問に対し【事例4裏設定】を参考に回答する。設定にない質問に対しては、可能であればアドリブで回答する。
展開2 15分	○ 追加の質問と回答を踏まえ、Hさんの当初の証言（被害店舗からIさんが出てくるのを見た）を信用できるか討論し、結論を出してもらう。 ○ 各班に結論と主な理由を発表してもらう。	
まとめ 5分	○ 講評 ○ 仮にHさんが嘘をついていた、あるいは勘違いをしていた場合に、Hさんの証言を元にIさんを犯人として逮捕することがどのような結果をもたらすか説明する。 ◎ 情報に接したとき、あるいは情報を元に何らかの行動をしようとするときには、その情報が信用できるものかどうか十分に検討する必要がある旨を説明する。	

事例設定

【事例1】

あなたが歩いていると、街で知らない人に声を掛けられて、次のようなことを言われた。

今、私の会社が開発した「ヨクヤセール」という健康食品を売っているんです。この健康食品は凄い効き目があって、1日3回、食事の前にこれを食べてもらうことで、食事を減らしたり、運動をしたりしなくとも太らずに理想の体型を保つことができます！ 1つ買っていきませんか。

【事例2】

(前半)

ある日、同じクラスのAさんから、次のような話をされた。

昨日、クラス担任のB先生が、バイクで猛スピードで走っているのを見たよ。

(後半)

先ほどのAさんにどのような状況で見たのか聞いてみると、次のような答えが返ってきた。

夜、塾の帰りに交差点で横断歩道の信号が青になるのを待っていたら、道路の反対側を猛スピードで通り過ぎたんだ。ヘルメットを被っていたから顔は良く見えなかったけど、体型とか目元の雰囲気とかが先生と似ていたよ。

【事例3】

(前半)

あなたは、国語のテストを先生から返してもらった日に、同じクラスのCさんから、このような話をされた。

今回の国語のテストはいつもより簡単だったね。

僕はいつも国語のテストは50点くらいしか取れないのに、今回は70点も取れたよ。

(後半)

Cさんと話した後、別のクラスメートのDさんから、今度はこんな話をされた。

今回の国語のテストはいつもより難しかったね。

いつもは国語のテストの平均点は60点くらいなのに、今回は平均が40点だったって先生が言ってたよ。

【事例4】

警察官の皆さんは、ある日こんな事件に遭遇した。

事件が起こった場所はG商店という小さなお店で、近所の人たちを相手に雑貨やお弁当などを売っており、朝9時から夜6時まで営業している。ある朝、店主のGさんが店に来てみると、店の脇（道路に面していない）の窓が割られていて、レジの中にあっただけのお金が無くなっていました。通報を受けた皆さんが周辺の住民に聞き込みをしたところ、Hさんという人が犯人を見たと言い、次のような証言をした。

昨日の夜9時頃、店の脇から近所に住むIさんが出てくるのを見たんだ。

彼が犯人に違いないよ。

【事例4 裏設定】

（設定）

- ・ Hさんはごくふつうの会社員。奥さんと子どもと3人で暮らしている。
- ・ 店の前は1か月前から街灯が壊れていて、他に一番近い街灯は10メートル先にある。
- ・ 昨晚は曇っていた。
- ・ 昨晚、Hさんは仕事のあと友達と居酒屋でお酒を飲んで家に帰るところだった。
- ・ Hさんはゴミ出しのルールを守らなかったことで前にIさんから注意されたことがあり、Iさんのことを嫌っている。
- ・ Hさんが見た人物は、Hさん自身より背が高く身長170センチメートルくらいで、Iさんと同じくらいだった。また、Iさんと同じ金髪だった。
- ・ Hさんが見た人物は、黒いジャンパーとズボンを着ていて、口にはマスクをしていた。
- ・ Hさんが見た人物は、周りを見回して一瞬Hさんの方を見た後反対方向に走って行ってしまったので、Hさんは5秒くらいしかその人物を見ていない。

2限ワークシート

○ Hさんの証言内容

昨日の夜9時頃、店の脇から近所に住むIさんが出てくるのを見たんだ。
彼が犯人に違いないよ。

Step1 Hさんの証言が信用できるかどうかを判断するためには、どんな質問を追加でしたら良い
と思いますか。班で話し合って下の表の「質問の内容」欄に書きましょう。

質問の内容	Hさんの答え

Step2 それぞれの質問に対するHさんの答えを上の表の「答え」欄に書いておきましょう。

他の班の人がした質問の内容とそれに対する答えもできるだけ書いておきましょう。

Step3 Hさんが答えた内容を元に、Hさんの話が信用できるか考えてみましょう。

結論	信用できる ・ 信用できない
理由	